



早春の健康の森のブナ林

渡辺英雄氏撮影

同窓会報 興学

発行所
山形県西置賜郡
小国町大字岩井沢
621番地
小国高等学校内
電話(62)2054
小国高等学校同窓会
事務局

“晩秋” 山母子草押花

長岡美枝子氏作品



魅力ある小国高校をめざして

同窓会長 仁科光悦



同窓生の皆さん如何お過ごしでしょうか。

小国町は今、白い森の国にふさわしく飯豊や朝日の山々はもちろんのこと、大地や母校の校舎も真白な雪で覆われています。それでも以前とは違い、山奥の集落まできれいに除雪され、皆さん車で通勤し、小国高校に通学する生徒たちも町内に泊まる必要がなくなりました。

本校も小国町唯一の県立高校として、町や地域と一体となり共に発展をしてまいりました。特に、町内をはじめ全国に多くの優秀な人材を送り出してきております。しかし、最近はその少子化に伴い小国高校への入学者も年々減りつづけ、将来

に大きな問題を投げかけております。

小国高校は現在、連携型の中高一貫教育の実践校として、様々な課題に取り組んでいます。この貴重な経験を生かしながら、地元出身の河内校長先生、遠藤教頭先生をはじめ諸先生方が、小国の魅力とすばらしい自然環境の良さを生かした、小国高校ならではの独創的な教育に力を入れておられます。

私たち同窓会も、各種団体が一緒になって小国高校がいつまでも町に存続するような組織をつくり、活動を展開していかなければならないと思います。

小国の子供たちが、ぜひ小国高校に入りたいと思うような学校をめざして、お互いにアイデアを出し合い、小さくともきりと光る小国高校にしようではありませんか。

楽しく、勢いのある学校に

校長 河内 昭 佐



一貫教育第一期入学式での挨拶

常日頃より本校に対するご支援・ご協力をお願いいたします。感謝申し上げます。この一年を振り返ってみますと様々なことがありました。

一つは進路問題です。昨年も高校生にとって就職難の年でした。本年も同様全国的に厳しい状況が続き、その内定率は過去最低となっています。

本校も例外ではありません。来年度についても厳しい状況が続くものと予想されていますので、進路希望の実現のためには今から準備する必要があります。これには生徒一人一人の頑張りと努力が不可欠です。

次に、文部科学省指定の、「小中高一貫教育開発学校」の研究は継続中であり、来年度が総まとめの年となります。本年度より中高一貫教育連携型入学者選抜が始めて実施され、現一年生が入学してきました。この一貫教育に係る諸行事・諸活動につきましては、生徒一人一人の活躍の場面が目立つ年でありました。

そんな中、何と言っても二年生のアメリカ西海岸ロサンゼルス・アナハイム等への修学旅行の意味は大きかったと思います。県内公立高等学校におけるアメリカ本土への修学旅行は初め



リトル東京中央通りで

てのことであり、県内外から注目されました。実施に当たり一抹の不安もありました。しかしその不安も取り越し苦労で、この修学旅行では予想以上の成果を挙げることができました。この修学旅行の成功で、来年度以降への明るい道が開かれたと思っています。

様々なことがありました。が、これらのことを土台として「楽しく、勢いのある学校」「小さくてもキラリと光る学校」となるよう、頑張りを努力していきます。

白い森学習で学んで これからの小国高校に期待すること

中高合同ボランティア活動を

玉川中学校一年

佐藤 広基



今年の総合で学習したことはたくさんあります。

その中でも舞茸の栽培、加工、販売したことが印象に残っています。

春には畑に舞茸が育つ木を植えました。秋になると収穫をして、たるまささんの家で加工しました。加工の内容は舞茸を洗ってからゆでたり、乾燥したりしました。なかなか売れなくて大変だったことを覚えていきます。

その他にさいわい荘訪問を行ったことも印象に残っています。中学生でからこを作りました。お年寄りに食べていただくのでマスク



やエプロン、三角巾などの服装をきちんとして衛生に気を付けて作りました。

さいわい荘の中は、思ったより広く驚きました。一番大変だったのが会話をすることです。声が聞こえなかったらしく、何度も繰り返し話したりしました。最初は何を話していいかわからなく、話してみても会話が続かなかつたりしました。後半は自分から進んで話せました。

これからも、中高合同でさいわい荘訪問やボランティアなどの活動をたくさんして欲しいと思います。

将来国際的職業につきたい

小国中学校二年

田澤 麻友子



私達小国中二年生は「生き方を考えよう」職業の世界を通して」をテーマとして白い森学習に取り組みました。

私がこの学習で印象深かったのが職場体験です。修

福祉について知りたい

北部中学校三年

齋藤 美香



白い森学習を通して福祉についていろいろな事を学びました。その中でも高齢化社会の問題や小国町の問題を調べ、これから大人になる私たちの課題を見つけることができました。

学旅行で行った職場訪問も含めて、職業の世界にふれることができたからです。ですから、小国高校では、さらに職場体験での視野を広げられる学習をしていてほしいと思います。

私は将来国際的職業につきたいと考えています。小国高校の修学旅行はアメリカですし、高校にはALTの先生もいるのでとても興味があります。そして、高校生が修学旅行で体験した事やALTの先生達とのふ

小国町の問題は6つあります。その中でも施設が足りないことや介護福祉士が少ない事が特に問題です。だから、私たちはこれから一人一人が高齢化社会に目向け、個人の問題ではなく社会全体の問題として認識しなければなりません。また、ボランティアを通してお年寄りを支えていかなければならないのです。私は多くの多くの人に自分の考えを広め、高齢化社会のことを理解してもらいたいと

れあいを中高合同集会等で発表してくれたらいいなと思います。

中学校での英会話の学習を生かして、小国高校が先頭となって白い森学習を通して、国際交流をさかんにしてくれたらいいと思います。



思います。そして、私自身ももっと福祉について知り、ボランティアを行いたいのです。

私は小国高校に進学した後、困っている人を助けたり、お年寄りの方へのボランティア活動などを進んでいきたいと考えています。



活気のある町 地域を目指し

北部中学校三年

舟山 かおり



私は、白い森学習を通して、自分の今までの考え方が変わりました。そして、もう一つ、小国町、自分の住んでいる地域への改善点を見つけることができました。

一つ目の、自分の考えが変わったというのは、今まで、自分の地域に関心を持っていなかったのですが、白い森学習を通して、良い所をたくさん見つけることができて、もっと自分の地域のことについて知りたいと思うようになりました。

二つ目の、小国町、自分の住んでいる地域への改善点というのは、もっと活気のある町、地域を作っていくということなんです。小国町

に、ずっと住み続けたい！と思うような活気のある小国町にするために、高校では、小国町に関するることについて調べ、良い所をどんな広め、たくさんの人に知ってもらい、将来、活気あふれる小国町にしていきたいと思います。



白い森学習で
中学校に出向いて授業する
高校の先生と生徒

職場体験を終えて

玉川中学校二年

舟山 美香



私は今年度白い森学習で職場体験をしました。私は美容室で二日間体験させていただきました。二日間も美容室の仕事をして自分にとってすごくいい経験になりました。美容師の仕事を

若ものが集まる 店を作る

小国中学校一年

田島 さやか



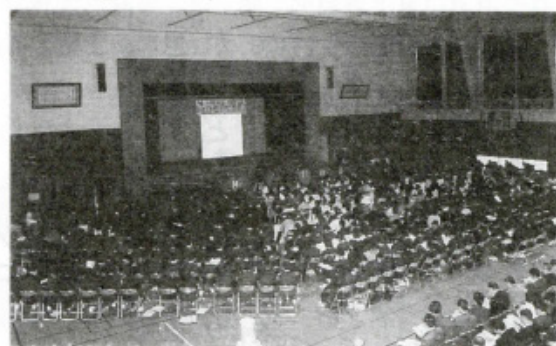
私達一年生は、「魅力的な小国町をつくらう」というテーマにそって活動をしました。私達の班では、「若者のために、にぎやか

見たり自分でやってみたりして、将来は美容関係の仕事につきたいと心から思いました。

そして、もう一つこの職場体験で学んだことがあります。それは、お客様との接しかたです。待っているお客さんにお茶をだして、おもてなしをしたりするのはどの職業についても大切なことだと思っています。

このように、職場体験を通してたくさんのことを学ぶことができました。だから

「な町にしよう」というテーマで、ゴールを「若ものが集まる店を作る」にしました。町内のお店や役場にインタビューや調査に行きました。そこでは、お店を建てるために、しなければいけないことや若者がどんなことを求めているのかなどについて調べました。この結果をもとに、パンフレットを作り、それを訪問させていたいただいた場所に届けました。



白い森子供議会で小国町の小中高生

ら、小国高校ではもう少し長い期間で、いろんな仕事を体験できるような職場体験ができればいいと思います。

この活動を通して、一軒のお店を建てる時にも様々な苦労があることがわかりました。また、自分達で電話をかけたり、お礼状を書いたり、社会人として必要な事柄もたくさん学ぶことができました。

小国高校でも「白い森学習」があると聞いています。もっと幅広く社会のことを調べてみたいと思います。

恩師回想

小国よいとこ よいとこ小国

土澤 幸雄 先生

(昭和五十九年～六十二年 体育)



小国の皆さん、四年間本
当に有難うございました。

桜咲く咲く小国の春はく
く小国よいとこよいとこ小

国”。温かい人情の中、生徒は皆純白、どんな色に染めるかは教師の力量次第だ
なと直感したものでした。

幸い情熱溢れる先生方に恵
まれ、それ迄積み重ねられ
てきた土台に更にプラス志
向活気ある方向に進むこと

雪の花びらの降る町

我妻 典子 先生

(昭和六十年～六十三年 家庭)



当時、独身寮が健在で、
斎藤はる子さんが寮母とし
て活躍でした。公私にわ

たり、母親代わりに面倒を
見て下さる斎藤さんに小国
人の情深さを学んだもの
でした。四季折々の旬の小

昭和六十年、新芽の息吹
が爽やかな春三月。希望と
不安を胸に長いトンネルを
抜けた私の目前に、花びら
程の雪が舞い降りて来たの
が実に新鮮に思い起こされ

のも、はる子おばさんのお

ができました。

運動会、マラソン、登山、
町内仮装行列、雪おろしポ
ランティア、そしてセミナ
ー合宿研修・キャンドルサ
ービスⅡその時、私の恥さ
らし、冬吾妻山遭難の記を
涙して聞いてくれた生徒達
等、又町全体に関わる体文
後援会の厚いご支援、本当
にお世話になりました。

「先生、もし一部に昇格し
たらハワイ旅行スンベナ」
と言われて一緒に汗を流し
たバレエ部。三年後には一

かげだと思えます。

小国高校在任中の四年間
は、担任や新体操部顧問と
して、自分の力量不足に悩
みながらも、生徒や同僚に
支えられ、貴重な体験も数
多く味わいました。家庭科
棟の新築に携わり、男女共
学の家庭科の実現のために
懸命だった日々がついにこ
間のことのように思い出さ
れます。

小国高校は、当時一学年
三組から成り、全職員が全

部昇格を果たし、尚県高校
地区予選三位、国体地区予
選も三位という上達ぶり。
毎年五月連休の新発田農商
合宿の成果でした。始めの
頃大会に出て昼食を体育館
の片隅で目立たぬようにと
っていた彼女は、何と本
部席前で伸び伸びと大声で
マンツーマンをするという
変りようでした。

四年間でのバレエ部員は
二十数名、それからずっと
途絶えることなく今も楽し
く交流を続けています。

生徒の顔と名前を把握でき
る教育的な規模でした。他
の学年でも他のクラスでも
分け隔てなく目をかける共
通理解が職員の中に当り前
のこととしてあったように
思います。多くは語らずと
も、後ろ姿が後輩へのメッ
セージという先生方も多か
ったのでしよう。尊敬でき
る先輩教師との出会いもこ
の頃のことでした。

当時の卒業生も三十歳を
越え、親となって成長した

夜の街のハシゴも夜更け
迄、同僚職員の皆さんには
ずい分と迷惑をおかけし
ましたが、楽しく充実した
四年間でした。本当に有難
うございました。

少子化を初め、難しい局
面かとは思いますが、小国
がとり組まれております新
しい試みが実り多いもので
ありますことを切に祈って
おります。

末筆ながら、小国高校同
窓会の更なる発展をご祈念
申し上げます。

姿を見せてくれる機会に接
する度に、私の教育姿勢に
対する評価が示される思い
がします。かつての諸先輩
のように、背中で語れる教
師にはほど遠い現実ですが、
あきらめずに信ずる所を続
けてみようと思っています。
平凡な雪も、時には花びら
のように新鮮な美しさで私
達の心を浄化してくれるよ
うに、水の多様な循環のあ
り方を見習って……。

会員がらのたより

母の美容院

木村 淳子

(昭和四十四年度卒)



なんのためらいもない返答に氣をよくして大急ぎで母の身支度を手伝う。

「すみません。今日、母を連れて行きたいのですが……。」「どうぞ、どうぞ、お待ちしております。」と

消防士としての使命

鈴木 鉄広

(昭和四十七年度卒)



出多い人生のページです。今でも関係した人以外の方にはお話出来ない事も沢山あります。決して犯罪等ではありませんが……。

卒業から早三十年を迎えようとしております。

嘘にも真面目に勉強したとは言えない三年間でしたが、クラブ活動や友人と楽しく過ごした事等々、思い

そんな私も卒業してから今日まで、職業としては割合堅いと言われる消防の仕事に携わっております。消防も大きく分類すると警防・救急・救助・予防と

すたどたどしくなり、家の中でもシルバーカーや手すりに掴まってやっと移動している。「こんなになつてしまつて……。」と誰かれかまわずに泣き出してしまふ。以前の母とはまるで違うこの容体にしだいに訪れる人の足も遠のいてしまひ、ヘルパーなど介護保険を利用して何とか家で父がつきつきりで暮らしている。

***美容院は、母が元気な頃からお世話になつていたが、今、体の不自由な母

あり、現在私は救急を主に担当しております。様々な事故や病気の方との出会いがあり、色々な人生模様を観る場面が多々あります。皆さんも知りたい様な事があるかも知れませんが、職業上家族であつても友人でも残念ながらお話は出来ません。

私達が立ち入る場所は、普通家族でも入らない様なプライベートルームである場合が多いにも関わらず、

を三時間あまり、何の変化もなかったように接し、カットをし、パーマをかけてくれる。美容院に母を連れていくとしたら誰かズツと付いていなければならぬ。いだろう事は容易に想像できていたが、「いいわよ。」の軽い一言で、私はいつも家で待機している。聞けば、その時店を訪れていた人々もまた、様々な形で手を貸してくれていた。白髪をやさしげに整えられた母は、とてもうれしそうな笑顔を

今まで私達ばかりでなく全国の救急隊員全て消防職員ということから着帽のまま入つておりましたが、世間の常識としてこんな失礼な事はないと思い、私は脱帽することとしました。こんな些細な事柄でも住民との壁を取り除いて行きたいと考えております。

救急でも昔ながらの搬送屋では済まなくなつております。住民の希望やニーズに応えるべく救急隊員も

向けて、「よかったよかった。」と言いながらまたすぐに泣き出す。彼女は両手を母に差し出して玄関まで見送ってくれる。「またおいでください。ありがとうございました。」

***美容師さんと、彼女を取り巻く地域の人々の暖かさ。どんなに厳しい時代でも暖かい人々の心は穏やかさと豊かさを運んでくれる。今度は雪が消えてチュリップの頃にまた来ようね。母さん。

日々研鑽を重ねております。私も個人的に医師の研修会や隊員同士の勉強会に参加し何とか追いついて行きたいと頑張っておりますが、年齢のこともあり思う様には身に付かなくなっているのが現状です。

しかし、一小国高校卒業生として、一救急隊員として恥じない様な生き方をしようと思つております。

今回の寄稿を機に、皆様の御意見や御要望をお聞かせ願えればと希望致します。

「好きなもの」



長岡 美枝子
(昭和四十三年度卒)

「何が好き？」と聞かれる事がある。食べ物なのか趣味なのか…内容も聞かずして即座に「燃えるもの」と答えてしまう。それ位、燃えるものが好きだ。それも、ただ燃えるのでなく燃え尽きるもの。

まず、素材でいえば布・紙・木。後に残らず燃えるところがいい。私は押し花に携わっているが、この素材の風合が、草花にとってもマッチする。芽吹いたばかりの生命感。花まつ盛りの充足感。枯れた草木の安堵感。どれもこれをも引き立たせてくれる。その力を借りて、感動できる表現・燃える表現を楽しんでいる。次に日々の過ごし方、生き方だが、又また燃えるも

のが好きだ。「明日を期せず」今日の一日を力一杯生きる事。一度限りの人生を悔いなく生き甲斐に満ちて生きるには、翌日あるを思う事なく日々燃え、今日に燃え尽くすである。

押し花の関係上、自然にふれることが多い。踏みつぶされがちな雑草に手をのばす時、かすむ稜線に想いを馳せる時、すり抜ける涼風に心の窓を開ける時、生きていく満足感に浸る。一日を夢中で過ごした日暮れには、枯れ葉の様になっっている私だが、自然にやかつての仕事の疲れを、自然にふれて癒す事ができるのは、有り難い循環だ。さて私はちよつと変わっているのだが、見事に咲いた美しい花よりも枯れた草木に心が動く。色褪せた枯草に心が動くのはなぜか。葉を落とした木立ちに心が燃えるのはなぜなのか。内に秘めたる燃える沈黙。ハラハラと散る様がいい。カサカサとした音がいい。日溜まりの中の足の裏に感じるあのクッションがいい。枯葉の様にバヤバヤと、後に残らずメラメラと。燃える、そんな生き方でありたい。

ローマ、パリ

8日間の旅

2001年8月21日、29日の8日間を、妻と一緒にヨーロッパの旅行を行った。妻60才自分は66才で共に健康であるうちにと考えての旅行である。新潟空港からシベリア経由で、ブタペストまで約11時間、夜のブタペスト市内を見学し、一泊後、ローマへ二泊の度に出た。サンピエトロ寺院、バチカン美術館、トレビの泉を見て夜はワインでカンツォーネを聴いた。世界の美港ナポリ港を見て、ペスピオ火山噴火に埋ったポンペ



ローマ「トレビの泉」

渡辺 英雄
(昭和二十九年年度卒)

イ遺跡を見学し、イタリア特産のカメオ工房で土産を買った。パリ三泊では、ヴェルサイユ宮殿内と大庭園を、夜はセーヌ川クルーズでパリの夜景を見学。印象派絵画を集めた、オルセー美術館やノートルダム寺院、パリ凱旋門など見学し、モンマルトルの丘に登り、フランス画家達の足跡を辿った。モンパルナスタワー55階からは、落日のパリ市街を眺めながらの夕食となり、旅情もひとしおだった。旅行で撮った写真は、小国駅



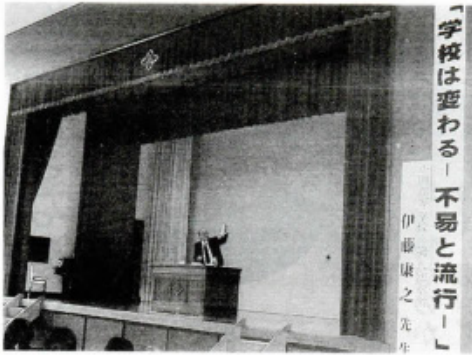
ヴェルサイユ宮殿「鏡の間」

前のギャラリーで、約一ヶ月間の個展を開き、町民の方々からご覧いただきました。写真の一部を現在小国町内の、労働金庫ロビーに展示しております。

平成十四年度総会が開催される

平成十四年度総会が昨年五月二十四日(金)午後六時より、みよしや食堂に於て行われ、協議については、満場一致で承認されました。懇親会も盛大にしかも楽しく行われました。又、総会にさきだち、学校では第五十四回創立記念式典が行なわれ、記念講演として、本校第八回卒業生の伊藤康之先生が「学校は変わる―不易と流行―」と題して、後輩生徒を前に熱弁していただきました。

長年小国高校に勤務のか



伊藤康之先生

たわら同窓会事務局長として勤めてこられた馬場先生が、ご退職のため事務局長を退任されました。長年事務局長として御活躍されました馬場事務局長、長年沖庭支部長として御活躍なされました塚原支部長さんには感謝状が贈られました。役員改選では、田中達男氏が新副会長に。島貫満氏が新事務局長に選ばれ、これからの同窓会発展のため頑張っていたのだと思います。



小国高校で学んで

三年 仁科 茜



私はもう少しで高校卒業という、大きな節目を迎えようとしています。今、私がこの小国高校で学んだことを考えてみると、とても数多くあり、一人の人間として成長できたと思います。特に、この三年間の中で何事にも挑戦することが自分自身にとって重要だということを知りました。

私は昨年、生徒会執行部の一員として活動する事ができました。学校のリーダーとなつて様々な行事に参加したり、より良い小国高校にするために仲間達と一緒に頑張りました。リーダーとして活動することに不安や焦りを感じた時もありました。しかし不安を取り除くためには自分を信じて



行動するしかないことを教わりました。

文化祭では、自分たちで新しい企画に挑戦しました。夜遅くまで準備をしたり大変でしたが、当日は大成功に終わり最高の思い出をつくる事ができました。

クラスにおいては、合唱コンクールで最優秀賞を目指し、頑張りました。練習日数が少なく全員がまとまるまで苦労する日もありました。しかし一人一人が力を出し最優秀賞をもらうこ

とができました。同時に団結力を深めることができました。

小国高校では人数が少ないため、団結力がすぐ深まる事ができ、とても素晴らしいと思います。また、一人一人が持っている個性が強いところも、魅力だと思います。

私は毎日の学校生活で、自分の持っている個性を伸ばすことができたのか、よく分かりません。しかし、いろんなことに挑戦するとう、今まで私になかった個性を見つけることができました。これからは、小国高校のスローガンでもあるように、個性を生かし夢をつかむことができたと思います。

地元の小国高校に進学したことで、地域の大切さや協力することの大切さも学べました。

三年間で学んだ一つ一つを、これからの人生に役立てていきたいです。三年間ありがとうございました。

平成13年度 同窓会会計決算書

収入の部

(単位:円)

科 目	当初予算額	補正額	予算現額	収入済額	増 減	摘 要
会 費	1,500,000	0	1,500,000	757,000	△743,000	694名分
入 会 金	210,000	0	210,000	210,000	0	@5,000 ×42名
繰 越 金	238,735	0	238,735	238,735	0	前年度 繰越金
雑 収 入	265	0	265	81	△184	預金利 子等
基金繰入金	0	613,000	613,000	612,850	△150	特別事 業基金
合 計	1,949,000	613,000	2,562,000	1,818,666	△743,334	

支出の部

(単位:円)

科 目	当初予算額	補正額	予算現額	支出済額	残 額	摘 要
需 要 費	40,000		40,000	30,347	9,653	用紙、卒業 アルバム等
会 議 費	270,000		270,000	264,673	5,327	各種役員会 諸経費等
通 信 費	250,000	△30,000	220,000	219,350	650	はがき・切手 手数料等
印 刷 費	250,000	30,000	280,000	276,790	3,210	会報その他
使用料賃借料	10,000		10,000	0	10,000	
事務室維持費	10,000		10,000	0	10,000	同窓会事務室 維持諸経費
慶 弔 費	10,000	10,000	20,000	20,000	0	弔電費
教育助成費	100,000	△10,000	90,000	51,880	38,120	卒業記念品 講師謝礼等
支部助成費	100,000		100,000	83,000	17,000	町内地区 11支部
特別事業基金	800,000		800,000	0	800,000	
事 務 費	50,000		50,000	50,000	0	事務局
予 備 費	59,000		59,000	25,000	34,000	
特別事業費	0	613,000	613,000	612,150	850	パソコン代、調 引き機ロップ、 スローガン看板
合 計	1,949,000	613,000	2,562,000	1,633,190	928,810	

平成14年度 同窓会会計予算書

収入の部

(単位:円)

科 目	本年度予算額	前年度予算額	比較増減	摘 要
会 費	1,000,000	1,500,000	△500,000	年会費 @1,000×1,000人
入 会 金	300,000	210,000	90,000	卒業生入会金 @5,000×60人
繰 越 金	185,476	238,735	△53,259	前年度繰越金
雑 収 入	524	265	259	預金利子等
合 計	1,486,000	1,949,000	△463,000	

支出の部

(単位:円)

科 目	本年度予算額	前年度予算額	比較増減	摘 要
需 要 費	40,000	40,000	0	用紙、卒業アル バム等
会 議 費	270,000	270,000	0	各種役員会諸経 費等
通 信 費	220,000	220,000	0	振込手数料・は がき・切手代等
印 刷 費	100,000	280,000	△180,000	
使用料賃借料	10,000	10,000	0	
事務室維持費	10,000	10,000	0	同窓会事務室維 持諸経費
慶 弔 費	20,000	20,000	0	弔電等
教育助成費	100,000	90,000	10,000	卒業記念品、講 師謝礼等
支部助成費	100,000	100,000	0	町内11地区
特別事業基金	350,000	800,000	△450,000	
事 務 費	50,000	50,000	0	事務局費等
事 業 費	180,000	0	180,000	会報発行費
予 備 費	36,000	59,000	△23,000	
合 計	1,486,000	1,949,000	△463,000	

平成15年度総会の案内

平成15年度総会を下記日程にて
行いますので、皆様お誘い合わせ
の上、多数ご参加下さいますよう
ご案内申し上げます。

- 期 日 平成15年5月23日(金)
- 時 間 午後6時00分より
- 会 場 喜久よし亭
- 会 費 3,000円
- TEL (0238) 62-3322
- 申し込み 小国高校内事務局
- TEL (0238) 62-2054
- FAX (0238) 62-2055

会員の皆さん、ご承知の
とおり同窓会の目的は会員
相互の親睦を図ることと、
母校の発展のために後援し
ていくことであります。

一役員として、その目的
を達成するため鋭意努力し
てまいる所存でありますの
で、会員皆さんのご支援と
ご協力を賜りますようお願い
申し上げます。

副会長



田 中 達 男
昭和33年度卒業

事務局長



島 貫 満
昭和32年度卒業

この度、小国高校同窓会
事務局長を引き受けること
になりました島貫満です。

私にとっては荷の重い重
大なことでありますが、引
き受けた以上、同窓会発展
の為に微力ながら頑張っ
ていきますので、同窓生の
皆々様の御理解と御協力、
そして御支援よろしくお願
い申し上げます。

●新役員紹介

平成十四年度会費納入者

今年度も沢山の方々に会費を納入していただきました。又、大口納入者の方でも大勢になりました。今後母校発展のため、後輩たちの学習環境の充実のため、同窓会として力になって行きたいと思っています。

今後ともよろしくお願い申し上げます。

渡羽 二口 部田 ます 子	二宮 猪股 武	安部 小信 千秋	斎部 喜民 一子	米部 喜民 一子	田部 義浩 三子	佐藤 静雄 三千円	野田 美恵子 五千円	長沼 節夫 六千円	馬場 高子 一万円	笹田 道雄 一万円	後藤 文雄 一万円	後藤 哲美 一万円	三井 仁科 光悦 三万円	遠藤 信義 五万円	高橋 納人 五万円													
本間 三男	柴田 三男	塚野 周次	昭和26年度卒業 (第三回)	渡部 昭三	横山 昭三	高橋 昭三	高橋 昭三	金部 昭三	加藤 昭三	井上 昭三	栗原 昭三	滝口 昭三	白田 昭三	小木 昭三	昭和25年度卒業 (第二回)	昭和24年度卒業 (第一回)	寺澤 昭三	栗田 昭三	加藤 昭三	田中 昭三								
仁科 吉男	遠藤 吉男	佐藤 吉男	大加 昭三	笹田 昭三	小池 昭三	昭和28年度卒業 (第五回)	三角 昭三	伊藤 昭三	渡辺 昭三	安藤 昭三	勝山 昭三	重田 昭三	渡辺 昭三	松井 昭三	前田 昭三	高橋 昭三	佐藤 昭三	昭和27年度卒業 (第四回)	田村 昭三	八木 昭三	佐藤 昭三							
寺崎 八雄	佐藤 八雄	須藤 八雄	安部 八雄	小池 八雄	鈴木 八雄	今藤 八雄	昭和31年度卒業 (第八回)	斎藤 八雄	横山 八雄	笹田 八雄	吉田 八雄	桜井 八雄	渡辺 八雄	宇津 八雄	渡辺 八雄	須藤 八雄	柴田 八雄	佐藤 八雄	小池 八雄	伊藤 八雄	富田 八雄	松原 八雄	舟橋 八雄	鹿島 八雄				
羽田 正一	後藤 正一	遠藤 正一	早川 正一	加藤 正一	若尾 正一	齋藤 正一	昭和33年度卒業 (第十回)	木村 正一	飯田 正一	丹波 正一	島田 正一	佐藤 正一	佐藤 正一	佐藤 正一	暮田 正一	田路 正一	山崎 正一	高橋 正一	矢野 正一	保科 正一	飛田 正一	須藤 正一	塩川 正一	後藤 正一	今藤 正一	富田 正一		
堀保 科友	大井 科友	酒井 科友	平井 科友	保田 科友	塩川 科友	齋藤 科友	今藤 科友	安部 科友	小池 科友	新田 科友	佐藤 科友	瀬川 科友	古田 科友	石井 科友	野村 科友	東本 科友	三須 科友	小池 科友	金田 科友	嶋田 科友	大村 科友	高橋 科友	森下 科友	渡辺 科友	矢野 科友	野村 科友	新田 科友	
斎藤 勝子	佐藤 勝子	安部 勝子	羽田 勝子	佐藤 勝子	栗田 勝子	伊藤 勝子	渡部 勝子	舟橋 勝子	藤田 勝子	高橋 勝子	鈴木 勝子	近藤 勝子	岩井 勝子	渡辺 勝子	渋谷 勝子	昭和36年度卒業 (第十三回)	和田 勝子	西澤 勝子	斎藤 勝子	小池 勝子	和野 勝子	丹田 勝子	舟橋 勝子	金田 勝子	長田 勝子	平井 勝子	三浦 勝子	沢田 勝子
木村 明子	須藤 明子	小池 明子	昭和39年度卒業 (第十六回)	舟橋 明子	須藤 明子	斎藤 明子	飯田 明子	安部 明子	神田 明子	清田 明子	佐藤 明子	渡部 明子	斎藤 明子	益田 明子	高橋 明子	佐藤 明子	安部 明子	入田 明子	益田 明子	伊藤 明子	昭和38年度卒業 (第十五回)	原田 明子	小池 明子	中田 明子	枝村 明子	佐藤 明子	小池 明子	
藤田 宏行	橋本 宏行	鈴木 宏行	井上 宏行	伊藤 宏行	小池 宏行	安部 宏行	丹波 宏行	筆田 宏行	斎藤 宏行	戸田 宏行	杉山 宏行	神田 宏行	瀬田 宏行	伊藤 宏行	伊藤 宏行	渡辺 宏行	長谷 宏行	栗田 宏行	山崎 宏行	舟橋 宏行	高橋 宏行	伊藤 宏行	昭和40年度卒業 (第十七回)	佐藤 宏行	細谷 宏行	高橋 宏行		

前新佐志佐渡渡羽安舟森瀬今齋須菅齋後伊野真鈴渡今田今	昭和42年度卒業 (第十九回)	善齋齋新松近須石宮佐桜川盛八後高佐	昭和41年度卒業 (第十八回)	舟山
田井藤藤村辺部生部山下木藤田原藤藤澤鍋木辺井中		木藤藤國本貝川下木井上田木藤橋藤		穀
絹て哲みひ由誠各俊美糖子美重子さつきとき子金文政謙ヒデ久のふ節文博政		周次初光敏健松洋た旗和公咲和秀		
代つ子ろ二矢雄子江子子子行		吉郎男榮雄喜博一子子江登子子正一		

昭和45年度卒業 (第二十二回)	杉原高伊石小鈴加藤高城今坂笠佐渡工 山田野藤川関木藤田橋 恭博金道幸優千和政 正輔雄榮夫江子え子洋夫	昭和44年度卒業 (第二十一回)	本塚本舟米舟田齋伊藤佐奥今小梅大 間原郷山野山村藤藤田野田嶋津場 信宣正京仁政敬和のとよ道雪勝博武みどり	昭和43年度卒業 (第二十回)	八見舟高駒高嶋佐 幡川山橋沢力崎藤 敏文享堅公美悦 勝雄二実一二子
---------------------	---	---------------------	--	--------------------	--

舟砥高伊秋仙佐舟伊松鈴鈴伊後松菅齋舟佐木木	七田鈴山荒鈴佐齋川市	木小棚渡舟丹塩金伊大佐木田
山石橋藤山石藤山藤浦木木藤藤永原藤山藤村戸	島宮木口木木藤藤上川	村松田部山 川 藤城藤村口
宣 幹 登京弘正正 俊鉄清恵美 ま綾武武義健	英幸 政厚清義勝光芳	英き栄英初三 恭松良義恵
明 隆 雄久子子恵美和力明広美子子子子久彦弘治	子子子幸子子昭男二巳	彦の子之男 義隆裕枝弘信子
昭和47年度卒業 (第二十四回)	昭和46年度卒業 (第二十三回)	

高近飯 野藤沢 洋幸徳 一治寛	昭和50年度卒業 (第二十七回)	竹田昌幸 竹田正志 高橋仁一 奥山澄繪 横山眞理 舟山村陽子 木村幸弘 渡辺藤子 佐藤美子 河村千賀子 内藤睦子 齋藤新吾 塚原敏弘 佐藤俊明 齋藤明	昭和49年度卒業 (第二十六回)	伊藤純堤 竹原京子 佐藤さち子 武島孝夫 舟藤恭二 齋藤とし子 齋藤知恵子 川上信康 水野哲行 会田信明 朝岡信彦 盛田信彦 今田彦	昭和48年度卒業 (第二十五回)	渡部雄一 奈良橋力夫 佐高正 佐藤重則 木村利明 加藤四郎 木村博純 丸山純子
--------------------------	---------------------	---	---------------------	--	---------------------	--

村土斎 上橋藤 由美子	(第三十一回)	昭和54年度卒業	塚伊塩塚嶋栗 原藤川原貫田 美保子幸榮益俊ゆり	昭和53年度卒業 (第二十回)	安石塚八飯梅佐川 倍川原幡沢藤村 由美子房喜美彰弥	昭和52年度卒業 (第十九回)	佐高小伊佐河横土船今渡船仁 藤橋嶋藤藤村山田山部科 順公明之キ順恵曉き正 男子子美義ヨ子子子子禎栄	昭和51年度卒業 (第十八回)	米間舟舟佐渡 野瀬山山藤藤 悦久康隆真 男美子春薫由美子
-------------------	---------	----------	-------------------------------	--------------------	---------------------------------	--------------------	--	--------------------	---------------------------------------

櫻井洋子	佐藤雅子	高橋幸子	高橋留美子	昭和58年度卒業 (第三十五回)	阿部百合子	須貝敦之	谷口小百合	島貫久美子	佐藤宏香	佐藤文彦	伊藤孝子	笠原章子	昭和57年度卒業 (第三十四回)	梅津智則	後藤千鶴	伊藤ひとみ	齋藤みどり	山中啓子	須貝美和子	昭和56年度卒業 (第三十三回)	伊藤くに子	安藤源一	相馬昌久	奥村セツ子	大井明子	見山政弘	昭和55年度卒業 (第三十二回)	斎藤由美子	金間雅利	本藤惠子	斎藤権希	伊藤千とせ	篠原紀子	村山由香	舟山浩実	小藤泰広	舟山万子
------	------	------	-------	---------------------	-------	------	-------	-------	------	------	------	------	---------------------	------	------	-------	-------	------	-------	---------------------	-------	------	------	-------	------	------	---------------------	-------	------	------	------	-------	------	------	------	------	------

川上 佐藤 眞由美	平成元年度卒業 (第四十一回)	三石 須田清明	昭和63年度卒業 (第四十回)	齋藤憲一 藤美和	昭和三十九年度卒業 (第三十九回)	益田博昭 大友清昭	昭和62年度卒業 (第二十九回)	長瀬美知志 佐藤千幸秋	昭和61年度卒業 (第三十八回)	横山尚昇 後嶋浩志	昭和60年度卒業 (第三十七回)	小羽池るみ 羽村えり子	昭和59年度卒業 (第三十六回)	飯澤靖彦 須貝篤志二	昭和58年度卒業 (第三十五回)
-----------------	---------------------------	------------	---------------------------	-------------	-----------------------------	--------------	----------------------------	----------------	----------------------------	--------------	----------------------------	----------------	----------------------------	---------------	----------------------------

須貝	渡部	伊藤	平成7年度卒業 (第四十七回)	渡部	小馬	佐藤	神保	栗田	小遠	伊藤	平成6年度卒業 (第四十六回)	佐藤	佐藤	安部	平成5年度卒業 (第四十五回)	齋藤	鈴木	須貝	小林	平成4年度卒業 (第四十四回)	浅井	赤井	手塚	平成3年度卒業 (第四十三回)	佐藤	渡部	舟山	小佐	佐藤	小林	平成2年度卒業 (第四十二回)
ルミ	来知	藤知		千友	馬梨	藤憲	潤一	田敏	友靖	藤竜		藤信	敦子	奈緒子		由紀	浩充	かおり			真喜子	美代子	優子		輝彦	祐和	山華	閑子	藤子	藤聡	林誠

安部誠 (第四十八回)	馬場貴久	松山亮輔	平成9年度卒業 (第四十九回)	桜井義太	駒沢友美	平成10年度卒業 (第五十回)	高井敏洋	佐藤智仁	平成11年度卒業 (第五十一回)	井上亮	向澤直也	伊藤敬太	今盛里美	平成12年度卒業 (第五十二回)	木村麻美	藤田梨絵	伊藤智美	遠藤寛子	山崎健治	平成13年度卒業 (第五十三回)	加藤あゆみ	鈴野千里	高井めぐみ	永藤真弓	益山康幸	丸山久幸
----------------	------	------	--------------------	------	------	--------------------	------	------	---------------------	-----	------	------	------	---------------------	------	------	------	------	------	---------------------	-------	------	-------	------	------	------

(平成十五年二月十八日現在)

平成14年度 3学年進路状況 (H15. 2. 17現在)

山形県立小国高等学校進路指導課

内 訳		男 子		女 子		合 計	
		合格	希望	合格	希望	合格	希望
進 学	4 年 制 大 学	4	4	3	3	7	7
	短 期 大 学	2	2	5	5	7	7
	看護・医療系	1	1	0	1	1	2
	専門学校・その他	6	6	9	10	15	16
	小 計	13	13	17	19	30	32
就 職	県内 小国町・西置賜	11	12	8	9	19	21
	県内 地 元 外	1	2	0	0	1	2
	県 外	1	2	2	3	3	5
	小 計	13	16	10	12	23	28
合 計		26	29	27	31	53	60

進学関係合格先一覧

1. 4年制大学 八戸工業大、東北公益文科大(2)、富士大、長岡大(2)、金沢工業大
2. 短期大学 羽陽学園短大、山形短大(2)、県立米沢女子短大、新潟青陵短大、新潟工業短大
3. 看護医療系 帝京大学付属放射線学校
4. 専門学校他 米沢調理師専門、山形調理師専門(2)、山形理容、仙台福祉専門、国際マルチビジネス仙台校、にいがた製菓・調理師専門(2)、北里大学保健衛生専門、東放学園音楽専門、東京食糧栄養専門、ベルエポック美容専門、トップモード学院東京校、山形県立農業大学校、ポリテクカレッジ新潟

就職関係内定一覧

1. 地 元 安部工業株、柳井上製作所、猪野電気工事株、株金十商店、東芝セラミックス株小国事業所(4)、株高橋商会、広重電子株(2)、南鈴木青果物店(3)、株アイランド、南いいで旅館、南高橋石材店、端長井西置賜車検センター
2. 地元外県内 株キッド
3. 県 外 新野商店株、株オータ、株コモディイイダ

活力に満ちた小国高校をめざし

二年 渡 部 梢



らしいものを残すことが出来たと思います。

小国高校は昨年「小中高一貫教育開発学校」の指定を受け、本当に町全体で一つのことに取り組める機会が増えたと思います。小学生・中学生と協力し、様々なことに取り組んで来た結果、合同集会などすば

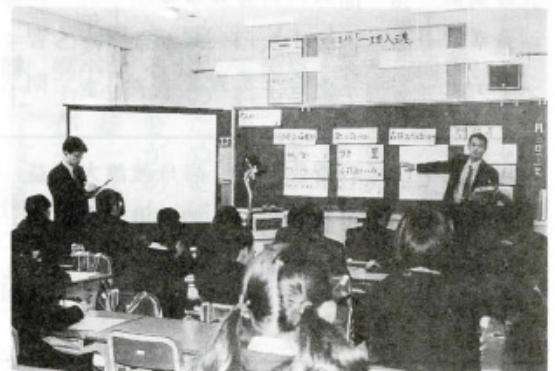
私はこのたび小国高等学校生徒会長になり、小中高一貫教育実践校として、成果の出るような一年にしたいと思っています。三月には、小中高合同リーダー研修会を行い、合同で取り組んでいる、キャンドルボラティア、あいさつ運動、古切手や使用済みはがき回

収など、一年間合同で取り組む内容を話し合うことになっていきます。学校は離れていますが、同じことに取り組んでいるんだという実感があります。これは、先輩方が何度も話し合いを繰り返し、アイディアを出し合って築きあげてきた伝統です。私も生徒会長になった今、これらの伝統を守っていかなくてはいいけません。自分の出身地域の生徒でまとまり、行事に参加すること多くなり、同じ地区の団結力もこれからどんどん生まれると思います。

一貫教育を行ってきから、小国高校単独で行っている行事にも一般の方をご招待したり、私たちの姿をみてもらうようにし、今年度あたりから体育祭や学校祭でも、小・中学生が高校に訪れてくれ

るようになり、一緒に行事に取り組みきっかけになればと思っています。中学校と高校で音楽の授業を一緒にに行い、町のふさと祭りに参加したり、合同で部活動を行ったり、これから一緒に行う機会はますます増えていくと思います。みんなが個性を出し合い、楽しい学校生活が送れるように、そして、思い出が一つでも多く出来るように、私たち執行部を中心に、今年度あたりから体育祭や学校祭でも、小・中学生が高校に訪れてくれ

るようになり、一緒に行事に取り組みきっかけになればと思っています。中学校と高校で音楽の授業を一緒にに行い、町のふさと祭りに参加したり、合同で部活動を行ったり、これから一緒に行う機会はますます増えていくと思います。みんなが個性を出し合い、楽しい学校生活が送れるように、そして、思い出が一つでも多く出来るように、私たち執行部を中心に、今年度あたりから体育祭や学校祭でも、小・中学生が高校に訪れてくれ



編集後記

十一月三日文化の日、小国の町は、文字どおり白い森となりました。紅葉の時期であり、さすがにびっくりました。

いま学校では、小中高一貫教育に全力で向き合っています。町を挙げて小国高校の将来を考えた教育環境の改善を行なっています。私は、時に思うことがあります。「一歩でも二歩でも前進出来るよう、もっと勉強、もっと部活動等をやってほしい。」他校の生徒に負けない気持を出してほしい。」と、中に入っている生徒に言いたいです。

同窓生の皆さん、小国の雪は春になると溶けますが、先日の韓国の地下鉄火災事件など都市では予測出来ないような事がおこります。皆が安心して暮らせることを祈ります。(駒)

※会報編集者

島貫 満 渡部ます子
栗田金雄 神保たえ子
駒沢堅一